



あなたも始めてみませんか 緑のカーテン ～ 広げよう地球温暖化対策の「環」～



緑のカーテンって何？

緑のカーテンとは！？

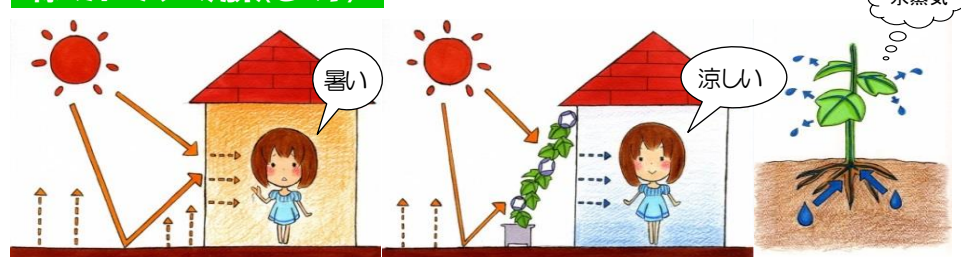
日が当たる窓を「アサガオ」や「ゴーヤ」といったつる性の植物で覆った、自然のカーテンのことです。光合成により、二酸化炭素を吸収し、酸素を作り出してくれます。

緑のカーテンは葉っぱから水分を蒸発させることで、空気中の熱を吸い取ります。

つまり、夏の強い日差しを遮るだけでなく、涼しい風を部屋に送ってくれます！

この夏、天然のエアコン「緑のカーテン」で、環境や暮らしにやさしい生活を！

緑のカーテンの効果(その1)



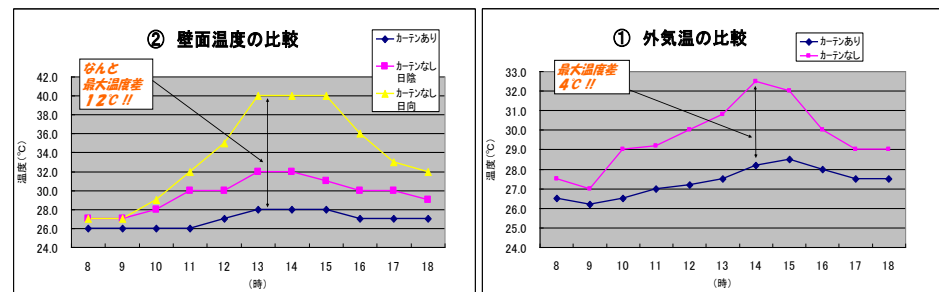
(カーテンなし)

直射日光や地面からの熱の影響で室内の温度は上昇します。

(カーテンあり)

窓からの熱や壁の温度上昇を防ぎます。また、根から吸い上げた水が葉から水蒸気として出てくるので、冷やされた空気が窓から入ってきます。

実際の測定では、外気温で4℃、壁面で12℃の最大温度差が発生!!



※ 測定日：平成21年8月12日（火）／秋田市最高気温：27.9℃（秋田地方気象台）／天候：晴れ
場所：旧環境庁舎／測定機器：赤外線放射温度計、棒状温度計

緑のカーテンの効果(その2)

つる性植物の栽培



エアコンの使用削減

つる性植物の栽培

CO₂ の削減
(スギ約9本分の
吸収量)
電気代の節約

緑のカーテンの設置例

①



(写真) 旧環境庁舎（寺内蛭根）の緑のカーテン
①②は2Fベランダのアサガオの様子
③部屋の中からみた様子

②



③



自慢の緑のカーテンをご紹介します！

「秋田市緑のカーテン写真展」作品募集

応募者全員に記念品（タンブラーor 洗剤）をプレゼント！

(応募方法)

① 持参・郵送で応募される場合

必要事項を記入した応募用紙と、緑のカーテンの写真をカラー印刷したもの（A4サイズ 21.0cm×29.7cm）により応募ください。

② メールで応募される場合

必要事項を入力した応募用紙と、縦横比3：4（4：3）の緑のカーテンの画像データ（おおむね4MB以内）を添付して応募ください。
※お寄せいただいた内容は、市のホームページや広報等で紹介させていただく場合があります。

(応募・問い合わせ先)

〒010-8560 秋田市山王一丁目1番1号

秋田市環境部環境総務課地球温暖化対策担当

(電話) 018-888-5704

(メール) ro-evmn@city.akita.lg.jp

(Web) <http://www.city.akita.lg.jp/kurashi/recycle/1006076/1013710.html>

緑のカーテンの育て方

ここではアサガオの育て方を紹介します。ゴーヤやヘチマなどの植物にも応用することができます。

用意するもの

- 種または苗
- 育苗用のポット：連結ポットか小さな(3号以下)ビニールポット
- プランターまたは花壇：プランターは大きい方が良く育つ
- 土：花や野菜用のもの(赤玉土や腐葉土などから作っても可)
- 肥料：野菜や花用の固形肥料(元肥用)と液体肥料(追肥用)
- ネット：あみ目の大きさは10cm程度
- 支柱など：いぼ竹、杭、ロープなど

5月中下旬～

<プランターや花壇の準備>

- プランターの場合
 - ① プランターの底に鉢底石を薄く敷く(赤玉の大粒でも可)。
 - ② ①の上に野菜や花用の土を9割程度入れます。
※ 肥料が入っていない場合はあらかじめ元肥を適量混ぜてから。
- 花壇の場合
前作の残渣を取り除き、元肥を入れて軽く耕した後に畝を立てます。
※ 土がやせている場合は石灰や土壌改良材を適量混ぜます。

<種まき>

種の発芽適温は20～25℃。5月中旬以降がおすすです。

- 下処理
アサガオの種は硬いので、発芽しやすくするために以下のいずれかの方法で下処理をします。
※ 市販の種で下処理されたものは必要ありません。
 - ① 種の表面をカッターかヤスリでほんのわずかにキズを付け、一晩水に漬けて吸水させます。
 - ② 水に数日間漬けて種がふくらむのを待つ。毎日観察!!
- 種まき
育苗用のポットに土を入れ、深さ0.5～1cm程度の穴を開け、種をまき土をかけます。そのあとたっぷり水をかけます。
- 育苗
 - ① 芽が出るまで土が乾かないようにします。
 - ② 芽が出たら、肥料が土に入っていない場合は液肥を育苗期間に1～2回やります。
 - ③ 双葉が完全に開いたらプランターや花壇に植えます。
※ 右は種まき後約2週間の苗(適期です) →

キズ付けるのはこちら側



6月上中旬～

<ネット張り>

ベランダや軒下などにネットの上部をしっかりと固定し、下部は杭やプランター等に固定します。



<定植>

ポットの下を押して土ごと苗を取り出し、ネットにからみやすい位置に10～20cm間隔で植え付けます。

<水やりと追肥>

- ① 生育初期は、土が乾いてきたらたっぷり与えます。
※ ためた雨水や米のとぎ汁等を使えばさらにエコ!
- ② 真夏は朝夕の涼しい時間帯に2回与えます。
- ③ 2週間に1回程度、水の代わりに液肥を施します。
※ 肥料の与えすぎは、花付きを悪くします。



<つる>

- ① 定植後3週間くらいでつるが伸びてきます。自然に巻き付かないものは巻き付けてあげましょう。
※ このとき、偏らないようバランス良く巻き付かせるのがポイントです。
- ② 葉の密度を濃くしたい場合は、50cmくらい伸びたつるの先端を摘み取ります。1週間後くらいで新たなつるが数本伸びてきます。

<病害虫>

病害虫には比較的強い植物ですが、ハダニ、アブラムシ、ヨトウムシ等に注意が必要です。

<開花・種>

定植後50日後くらいから花が咲き始めますが、種ができる前にしぼんだ花を摘むと、葉っぱの枯れ上がりを遅くすることができます。



9月中旬～

果実が茶色になって成熟し、裂ける程度になった頃に採種し、陰干ししてよく乾燥させた後、翌年まで冷暗所に保管します。

栽培カレンダー

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
種まき		←→					
定植			←→				
開花				←→			
採種						←→	